横浜市立瀬ヶ崎小学校　学校便り
せがさきの風
大きな朝日さしのぼる　希望と愛の花が咲く
世界に窓を開け放つ　ここは横浜瀬ヶ崎小学校
11月号
2022（令和4）年
10月31日発行
〒236-0037　横浜市金沢区六浦東三丁目２番１号
TEL 781-2446・2447　FAX 701-4892
ホームページ http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/segasaki/
メールアドレス y3segasa@edu.city.yokohama.jp

「師匠から弟子へ、弟子から師匠へ」
～つながりとやさしさを基に、同じ想いで学び合う～

学校長　日暮　　勤

先日１０月２２日（土）にスポーツフェスティバルを開催しました。天候にも恵まれ、多くの保護者、地域の方々のご協力に感謝の気持ちでいっぱいです。子どもの全力を尽くす姿を観ていただくことができました。本当にありがとうございました。

私は開会式で「戦う相手がいるから試合ができる。」、「相手への感謝の気持ちを忘れないようにしてほしい。」と話しました。実際に子どもたちは、同じ色のチームの勝利に大歓声で喜びを表現する姿も、負けても自然に相手に拍手を送る姿も随所に見せてくれました。とても素敵な光景でした。

得点がある競技とは別に、演技種目があります。この中で瀬ケ崎小の伝統となっているのは、同じ演技をする１，２年、３，４年、５，６年の中で生まれる師弟関係です。上の学年の子どもたちが師匠として関わり、弟子である下の学年の子どもたちに演技を伝授する営みです。はじめに、師匠としてどんなスポーツフェスティバルにしたいか、どう関わりたいかを話し合います。その時に生かされるのは昨年度の経験です。弟子の時代に師匠から受け継いだものをもう一度ふり返り、自分のものにしていくことで自信をもって師匠になれるよう、学年で支え合うのです。

私は「師匠」と「弟子」について、その関係を調べてみました。その関係は単なる上下関係ではありません。弟子が師匠から技術や想い、生き方を「見て学ぶ」「感じて学ぶ」伝授であり、学校の授業のように一つひとつを師匠から教わるものではありません。教えられた学びでは、教えた以上のものは生まれにくいものですが、自らが「見て」「感じた」学びは、想いや考えが積み重なって自分なりの形がつくられていくというのです。そして伝承の過程で、師匠は弟子の前で手本となる生き方を意識し、弟子は師匠に近づこうと技量と人格を磨く努力をするのです。

様々な日本の伝統の中にある師匠と弟子の関係を見ても、決して弟子は師匠のコピーではなく、学んだことを基に、自分らしく表現していることに気づきます。師匠は「自らを超えていってほしい」という想いをもってつながり、自ら学び成長する弟子から、その成長の姿を通して「つながって生きる学びの良さ」や「自分の想いが伝わった喜び」を実感するのです。

瀬ケ崎小の師匠達も弟子の前に立った時に、自然と意識を高め、師匠として恥ずかしくないように振る舞っていましたし、弟子達も師匠をモデルにし、想いをもって自分らしい表現をつくっていました。

瀬ケ崎小学校で５，６年生がソーラン節を演技としたのは 2002 年からだそうです。その頃から師匠と弟子という呼称があったかはわかりませんが、20 年もの間、師匠が弟子に伝承しているこのつながりは、1～6 年にかけて弟子～師匠を 3 回くりかえすことで深みを増し、瀬ケ崎小がずっと大切にしているものを引き継いでいます。そして、そのつながりを基にした、自分らしい表現ができる学びの場で仕上げられた、子どもたちの躍動的な演技に私は感動しました。

初めて師匠を経験した 2 年生は次のようにスポーツフェスティバルをふりかえっています。「教えたことがちゃんと伝わってうれしい」「来年は１年生が師匠となって弟子に教えるところをみてみたい」「これからも１年生と仲良くしていきたい」と師匠と弟子がつながり、認め合って学びをつくっていることを大変うれしく思いました。これが瀬ケ崎っ子のもつあたたかさとやさしさを育んでいることを確信しました。

4 年生は「4 年生はやさしく教え、3 年生はそれを楽しく笑顔でまじめに受け止めてくれる。みんながやさしいから師匠と弟子の関係はくずれないのかなと思います。」と、この学びをふり返っています。自分たちの師弟関係がやさしさを基盤としていることに気付き、その良さを学んでいるのです。

閉会式で団長が見せた涙も、ゴール直前で転倒した友だちに肩を叩いて声をかける姿も、力の限りを尽くして大声で応援する姿もつながりとやさしさから生まれたものです。多くの人たちの支えとつながりで達成できた「笑顔で協力」というスローガンを合言葉に、このように生きる学びをつくる瀬ケ崎小の子どもたちは私の師匠です。師匠である子ども達と自分の想いを重ねながら、私も共に学び続けたいと思います。

次はふれあいフェスティバルです。つながりとやさしさを基に、同じ想いで学び合っていきます。